

京都精神保健福祉士協会

きょうと通信

NO.95



2012年 12月発行

事務局：医療法人栄仁会 宇治おうばく病院内

〒611-0011 宇治市五ヶ庄三番割 32-1

TEL 0774-32-8399 (直)

FAX 0774-32-8399 (直)

e-mail office@kyo-psw.org

HP <http://www.kyo-psw.org/>

【2月例会案内】

「何度でも見直そう障害者制度改革 ～これから私たちに何ができるのか～」

日 時：2013年2月2日（土）14:00～17:00

会 場：京都アスニー第2研修室

〒604-8401 京都市中京区丸太町通七本松西入ル

http://web.kyoto-inet.or.jp/org/asny1/about/institution/honkan/honkan_map.html

講師：北野誠一氏（特定非営利法人おおさか地域支援ネットワーク理事長，内閣府
障害者政策委員会委員）

参加費：非会員 500円（会員・当事者の方は無料）

障害者権利条約批准に必要な法整備に向け、2009年12月障害者制度改革推進本部が設置されました。その後、改正障害者基本法、障害者総合支援法が活発な議論の末に成立しています。そして現在は障害者差別禁止法の制定に向けての動きがあります。今年の7月には障害者政策委員会が発足するなど、次々に新たな大きな動きが起こっています。

そこで今回、北野誠一氏を講師にお招きし、障害者権利条約批准に向けたここまでの国内の動きを改めて学び、私たちにこれから何ができるのか、どんな実践が求められるのかを考える機会としたいと思います。

（今回の例会は滋賀県精神保健福祉士会との共催です。）

（権利擁護委員会）

【権利擁護委員会 座談会】

日 時： 2012 年 9 月 28 日（金） 18:45～21:00
会 場： つばき医院 デイルーム
テーマ： （続）『PSW が悩むとき』 ひっかかり・凍りつき・燃え尽き・ゆらぎ
講 師： 吉池 毅志氏（大阪人間科学大学准教授）
参加者： 10 名

権利擁護委員会では昨年度 2 月例会を受けて「一回で終わるのはもったいない」「参加者の分かち合いの時間をもっととりたい」という思いから今回座談会を開催にいたしました。

講師の吉池氏からは 2 月例会での内容を要約して説明していただきました。PSW が各職場内において壁にぶつかった時にどうしたら良いのか、その悩みの中で時に凍りつき、時に燃え尽き、揺らいでいる時、その悩みをシェアできる「仲間のサポート」の重要性、また PSW が悩む事の価値をお話いただきました。

その後、参加者の意見交換では「若い頃は悩みつつ、気を使いながらやってきた事も長年やっていると麻痺してくる。“忙しい”と言い訳して逃げている。逆に言うと麻痺しないとやっていけない部分もある。日常ではそういう現実気付く暇がないのでこのような振り返る場が必要だと思う。」「職場の壁がワーカーをしんどくさせる。」「以前働いていた場所で、自分のやっている事や障害者の権利などを振り返る時間がなかった。今から考えるとあれで良かったのかと思う。」といった声がありました。また PSW 一人職場で働く参加者からは「いろいろな仕事を任されるので PSW の仕事なんなのかわからなくなる。」「悩んだ時にシェアできる仲間がいない。」といった発言から、現在抱える悩みのシェアが行われました。その他にも職場特有の抱える葛藤や悩みだけではなく、それぞれの職場ならではの嬉しかった話なども語られました。

参加者 10 名の小規模な会ではありましたが、経験の豊富な方からまだ浅い方まで、また様々な職場で働く方に参加頂き、全員に発言してもらう事ができました。PSW として悩む事は当たり前であり、それを周りの仲間とシェアしていく事が自分たちのためにも、クライアントのためにも必要な事であると考えさせられる会でした。

（権利擁護委員会）

【2012 年度初任者研修（日本精神保健福祉士協会生涯研修制度基幹研修Ⅰ）

講師変更のお知らせ】

きょうと通信 94 号でご案内しました「初任者研修」の講師が一部都合により変更になりました（個別に郵送させていただいた今年度対象者のみなさま宛のご案内には「調整中」とさせていただいていた箇所です）。どうかご承知いただきますようお願い申し上げます。

第一日目（1 月 19 日）

「精神保健福祉士の実践論Ⅰ～私の大切にしてきたこと」

講師 知名純子さん（まるいクリニック）



富永智江さん（つばき医院）

*今年度参加申し込みはすでに終了しており、12 月 3 日現在 56 名の方のお申し込みをいただいています。

【心神喪失者等医療観察法学習会・公開学習会報告】

日 時：2012 年 10 月 20 日（土） 15:00～17:30

会 場：高木神経科医院

テーマ：医療観察法を問う、家族と地域の思いとして

講師：NPO 法人滋賀県精神障害者家族会連合会 事務局長 高岡 清隆氏

参加者：9 名（委員 4 名を含む）

今回の公開学習会は、滋賀県精神障害者家族会連合会（鳩の会）事務局長の高岡清隆氏にお越しいただき、家族会代表として医療観察病棟の建設計画へ反対された経緯を中心に、長年の家族会活動を通して感じてこられた日本の精神医療や地域社会に対する思い、またご家族とともに歩まれた時間を振り返りながら今感じておられることなどを話して下さいました。

高岡氏は家族会リーダーの立場から、県の医療観察病棟の建設計画に反対されています。元々、高岡氏は施行前より医療観察法について疑問を持たれていましたが、昨年 10 月、滋賀県精神医療センターに医療観察病棟が建設される計画を知り、非常に驚かれたそうです。そのことを家族会の役員に伝えましたが、当初は家族会の中でも温度差があり、意見がまとまりませんでした。「国の決めたことだから今更建設に反対しても変わらない」と諦めにも近い発言をする会員に対して、高岡氏は「建設前から反対の意を唱えておけば、たとえ入院病棟が建設されても“我々は建設前から反対していた”と声を大にして主張することが出来る。もし何も言わなければ、黙認していたと言われても言い訳できない」と説得し、結果として知事あてに建設反対の意見書を提出するに至ったそうです。同じく、建設予定地に隣接する青山地区の住人が病棟建設に対して反対されていましたが、「そんな危ない病院が地域に出来たら安心して暮らせない」といった地域の保安を理由として反対の意を表明されていました。そのことを目の当たりにして「政府は医療観察法の施行前には“この法律が出来ることで、日本の精神医療全体の底上げにつながる”と説明していたが、医療観察病棟の存在そのものが精神障害者への偏見・差別の温床となっている現実がある」と話されたことが強く印象に残っています。

後半は、精神疾患に罹っておられるご家族と向き合いながら、ともに歩まれてきた中で感じてこられた思いを切々と語って下さいました。ご家族の病状が悪くなり近隣とのトラブルが続く中、近隣から厳しく叱責され引っ越しを迫られた時、高岡氏は「近隣へ迷惑をかけたことについては謝るが、我々家族も皆と同じ住人である」ことを毅然と訴えられたこと。ご家族を説得し、やっとのことで入院にこぎつけた後に、闘病されているご家族の姿を見て胸が詰まった時のこと。精神科病院でのボランティア活動を通じて、精神疾患への理解を深めていかれたこと…。葛藤を抱えながらもご家族とともに様々な困難と向き合ってこられたお話を伺いながら、私自身胸が熱くなりました。

私は、障害者権利条約の理念や社会モデルを提示した上で医療観察法の問題点を明確に指摘される高岡氏のお話を伺いながら、これまでの家族会活動やご家族との歩みの中で培われてきた思いがバックボーンにあることが、氏の提言をより切実で重いものにする根源であると思いました。それは、医療観察法を含む今の精神医療の問題が、実は精神障害者だけではなく、社会全体の問題として根深く存在することを示していると理解しました。そして、自らの立場で考えると、精神保健福祉士は精神障害者に対して社会的な偏見・差別をなくす、また当事者の生きづらさを緩和する役割を担うべき専門職である一方、多くの課題を抱えた日本の精神保健福祉制度を構成する一員であることは変わりなく、実は表裏一体の存在として関わっている事実を突き付けられた思いがしまし

た。

時間が足りず、講師と参加者との掛け合いが深められなかったことが心残りではありましたが、自分達の足元を見直す機会として有意義は時間を過ごすことが出来ました。

(心身喪失者等医療観察法学習会 中條)

【第3回災害支援を考える会】

日 時：2012年10月27日（土）14:00～17:00

会 場：バックアップセンター・きょうと

テーマ： 京都で災害がおこったら…活かそうわたしたちのネットワーク

講 師： NPO 愛知ネット 南里 幸氏・伊藤 健太氏

参加者： 13名

10月27日（土）に『第3回災害支援について考える～京都で災害が起きたら…活かそうわたしたちのネットワーク～』と題して例会を開催しました。第1回と2回は東日本大震災の実際の被害状況や被災地の支援状況の報告を受け、今私たちにできることは何かを考える機会としてきました。同時にこれらの報告から私たち自身が生活をする町で災害に見舞われたとき、私たちは精神保健福祉士としてどのように行動していくことができるのかということを考えていく必要性も学びました。そこで第3回目の今回は講師に地域の防災計画を作成するためにワークショップを開発研究しておられるNPO愛知ネットの南里幸氏、伊藤健太氏をお迎えして「京都で災害が起きたら」について考える機会としました。

前半は南里氏より東日本大震災の際、震災直後から支援活動をした現地の状況と各ボランティア団体がどのように機能したかや課題について報告を受けました。後半は京都で予想される災害を設定し、各参加者が地域住民や当事者、SW、旅行者など様々な立場になりきり、その中で理想的な行動とそうでない場合のその二つの状況を予想し話し合いました。この方法により具体的に「被災時の状況」つまりそれぞれの立場の方がどのような状況に陥るのかについて考えることができたと思います。そしてさらに、この状況に備えてどんな準備をしておくのかということにまで考えが及ぶことになりました。予想以上に考えることが多くあり、そのときに「私たちのネットワークをどのように活かすのか」ということまで考えることはできませんでした。今後の課題です。



また、シミュレーションの中では登場する当事者が「100%世話を受けるだけの存在としてイメージされている」という指摘が参加者からあがり、さらに「当事者も又、他者を支援するイメージが作れないとしたら、それは支援職の支援の貧しさではないだろう

うか」という投げかけがありました。私たちは支援をする立場で被災時の準備をするとき、支援の必要な方の状況を予測するために、「世話を受ける存在」を前提にすることが一定必要となります。しかしながら、日常的なかかわりの視点として「自分のことを自分でどう守るのか」そのために自分の状況（病気や障害について）をどこまで伝えるのか、どのように支援してほしいのかなどを考えることができるような、エンパワメントの視点をもつことの重要性をあらためて気づかせていただきました。

今回は特に参加者が少なかったことが残念ではありません。実際に災害が起きた時、より多くの会員が各自のネットワークをフルに活かし動くことが必要と思われます。そのためにはお互いのことを知り合うことが第一歩だと学びました。いざというときに私たちの普段の活動を最大限活かせるように日頃から繋がることを意識して活動していきたいですね。

(災害支援検討委員会)

【リレー職場紹介】

京都府立与謝の海病院 医事課
川戸 真美子さん

京都府立与謝の海病院は、京都府北部の与謝野町、目の前には阿蘇海と天橋立が見えるととても景色の良い所にあります。また、この時期は美味しいカニと温泉の季節でもありますのでぜひ皆さん丹後へお越しください。

さて、当院は昭和 28 年に与謝の海療養所という名称で府北部地域の結核医療中心の療養所として開設されました。その後、医学・医術の進歩等にもなう結核患者の減少と、北部地域の医療需要の変化により、昭和 36 年に与謝の海病院と名称を改め内科・外科を中心とした一般病院に、平成 6 年からは総合病院になりました。また、詳細は未定ですが平成 25 年春に府立医科大学の付属病院になる話があります。

当院の精神科は、昭和 53 年に非常勤医師と精神衛生相談員が配置され週 1 回の外来から始まりました。その後、医師の常勤化と、平成 3 年に老人性痴呆診断センター（現：老人性認知症診断センター）が開設され、現在、常勤医師 2 名と精神保健福祉相談員（精神保健福祉士）1 名で精神科外来を担当しています。なお入院が必要な場合は舞鶴医療センター等へ紹介しています。

当院は、丹後地域の唯一の精神科外来ということもあって、認知症、気分障害、神経症性障害、不眠、統合失調症、知的障害など思春期から老年期まで様々な患者が受診します。そのなかで相談員は、精神科初診時の予診をとったり、医師と共に認知症の鑑別診断をおこなったり、患者や家族からの相談、医師や関係機関との連絡調整などを主におこなっています。

認知症の相談では、独居や高齢夫婦で生活されている方が多くなりました。認知症の診断希望、介護保険主治医意見書希望、進行予防の薬を希望、認知症による周辺症状の治療を主訴に受診されます。物忘れを心配して自ら受診する人、家族が心配して連れてくる人、本人に自覚がないため何もいわず連れてこられる人などあります。鑑別診断には、MRI 等の頭部画像や認知機能検査だけではなく認知症の症状や生活の状況等細かく聞き取りをすることも相談員の重要な役割です。高齢化により認知症の相談は多くなっており、鑑別診断には 2 か月待ちの状態です。そのため、独居などで早急に支援が必要な場合でも対応が遅くなってしまうのが問題で、かかりつけ医やケアマネ等との調整が大事だと思っています。

最後に、今後も病院理念の「患者が中心の、地域に開かれた病院」のように当院に受診してよかったと思える病院になること、丹後地域の医療・精神保健福祉の向上をめざしていきたいと思います。

【2012年度 第5回 役員会開催報告】

日 時) 2012年9月26日(水) 19:15~23:00	
会 場) 高木神経科医院	進行) 物 書記) 大塚
出席者) 大塚・斉藤・下村・西村・藤井・堀田・物・森田・渡辺	
欠席者) 上田・知名・畚野	

【2012年度 第6回 役員会開催報告】

日 時) 2012年10月24日(水) 19:00~23:00	
会 場) 高木神経科医院	進行) 物 書記) 大塚
出席者) 上田・大塚・斉藤・下村・知名・西村・藤井・堀田・物・森田・渡辺	
欠席者) 畚野	

概要報告をHPに掲載しています→<http://kyo-psw.org/member/kapsw/yakuinkai.php>

— Topics —

次年度は役員改選となります。新たな協会の運営をあれやこれやと議論しています。いっしょに協会運営を担っていきましょう。事務局体制も宇治おうばく病院は今期までです。次期、事務局募集中です。お気軽にお問い合わせください！

【事務局からのお知らせ】

会員の動向

〔入会〕

藤本 信吾さん (所属) 内浜診療所

〔退会〕

東口 千香さん (所属) 医療法人社団 ウエノ診療所 いずみの里 あゆみ舎

吉田 早希さん (所属) 一般財団法人療道協会 西山病院

〔所属変更〕

安藤 佳珠子さん (新所属) 立命館大学大学院

池谷 翔子さん (新所属) 長岡記念財団長岡ヘルスケアセンター (長岡病院)
医療社会事業部

岩尾 莉恵さん (新所属) なし

酒井 奈津季さん (新所属) 医療法人社団 瀬尾医院

花房 諒さん (新所属) 医療法人小憩会 ACT - ひふみ

〒564-0082 大阪府吹田市片山町 1-25-4-201

Tel06-7176-0520 Fax06-7176-0520

[氏名変更&所属変更]

本田 晃子さん (旧姓：湯川)

(新所属) 京都総合福祉協会

京都市発達障害者支援センターかがやき

〒602-8144 京都市上京区丸太町通黒門東入藁屋町 536-1

Tel075-841-0375 Fax075-841-0381

2012 年 11 月 28 日現在 会員数 366 名

会費納入のおねがい

2012 年度会費 4,000 円 (きょうと通信郵送利用の方は郵送負担料 1,000 円) のお振込みはお済みでしょうか? 年々、会費をお納めいただけない方がまだいらっしゃいます。会費未納がある方には、9 月初旬にお届けしました 2012 年度会員名簿に、会費振込用紙を同封しておりますので、早々にお納めくださいますようお願いします。協会の事業は会費によって運営されていますので、ご理解・ご協力下さい。

郵便振替口座番号 : 00960-7-120392

口座名義 : 京都精神保健福祉士協会

年会費 : 4,000 円 (※ 通信郵送負担料 : 1,000 円)

ほっとひと息コーナー



2010 年。平城遷都 1300 年祭。せんとくん登場!

奈良は、それはもう大盛り上がりで、メイン会場となった平城宮跡は、連日観光客でいっぱいでした。

訪れられた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

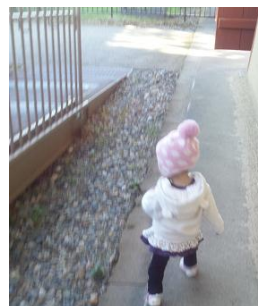
そんな平城宮跡のすぐ近くに住んでいる私にとって、その場所はまさに“休日の救世主!” (笑)

広々とした敷地に、歩きやすい道、車や自転車の来ない安心感。動きたくて仕方ない盛りのチビちゃんの遊び場に最適なんです! チビちゃんも、「こんなに自由に動き回れる場所はないわ!」と満足そうな顔で、ひたすら遊びまわってニコニコごきげん♪

また、春には桜、秋には紅葉。草花もたくさんあって、季節を感じるのにも心地いい素敵な場所ですよ。

みなさんも、のんびり散歩しにきませんか?

(おーぶんせさみ 堀 千春)



【編集後記】

寒さ厳しくなって参りました。皆様ご自愛くださいませ。(中野)

あっという間に今年もあと数日! やり残したことはありませんか? (堀)